

地域連携事業終了報告

連携団体名	広尾町	実施年度	2018～20 年度
事業テーマ	ひろおサンタランド活性化プロジェクト		
参加教員	代 表 者：佐藤大輔 共同参加教員：		
事業目的	広尾町は酪農や林業、漁業等をはじめとする第一次産業を中心に、重要港湾である十勝港、ノルウェー・オスロ市より正式に認められたサンタランドなどの観光コンテンツ等を抱える、多様な資源に恵まれた地域である。それにもかかわらず、それらを効果的に活用した経済活動には乏しく、潜在的資源に対する付加価値の創出が重要な課題となっている。なかでも 1985 年から広尾町北方圏交流振興会が実施している「ひろおサンタメール」事業は、89 年の 17 万 2 千通をピークに下降傾向が続き、近年では採算ラインを大幅に下回る 1 万 8 千通程度に落ち込むなど、事業の存続が危ぶまれている。地域では事業の存続に向けてコンサルティング会社を活用する選択肢も検討されてきたが、「地元のことは地元で解決する」道を模索しなければ、持続可能な地域活性化を実現することはできない。将来問題に直面した時、解決策を自らの手で構築していくことができるように、問題点の洗い出しから解決策の立案まで、町の中で問題解決に向けたノウハウを蓄積していくことが肝要だと考えられる。そこで、本事業では、次世代の広尾町を担う広尾高校生と大学の研究室、およびそこに所属する大学生を中心に、地域の人々も巻き込みつつ、町・高校・大学が共同での問題解決に取り組むことで地域活性化や地方創生を実現することを目指した。		
経過報告	【2018 年度】 サンタメール事業を中心に課題の検討をすすめ、メールの装丁改編や事業の再構築、新しいマーケティングの提案と実施などを中心に活動を進めた。サッポロファクトリーの協力を得て、ツリー点灯式イベントでプレゼンテーションや子供向けオリジナルイベントの実施なども行った。 【2019 年度】 サンタメール事業の課題解決に力点を置いて取り組んだ。減少した利用者の回復を目論んで、メールの装丁や申込み方法の再検討、サッポロファクトリー等での露出活動をはじめとするマーケティングの見直しなどを進め、抜本的な改革を進めた。また、サンタメール事業だけでなく、サンタランド（サンタランドとしての町、およびサンタランド公園としての大丸山公園）の付加価値に関する再定義を試み、基本的な戦略を策定することにも取り組んだ。		

	【2020 年度】 サンタメール事業を中心に、町の課題を広く扱い、特に町が抱える有益な資源をどのように活用することができるかを検討した。特に広尾町は第一次産業を中心に経済活動に有利な潜在力を有しており、これらをいかに活用することができるかが重要な課題となる。そこで、このような課題を特に高校生（広尾高校）と大学生（北海学園大学佐藤研究室）が共同で検討し、提案を構築していくことで将来の当事者である広尾高校生が自立して問題解決に関与できる土壌を生成することを目論んだ。
総括	【成果と課題】 3 年間の実施期間では、特に広尾町の「サンタメール」事業の活性化を課題として取り上げ、研究室の学生たちと地域での調査やデータの分析、札幌での周知活動などに取り組んだ。例えば、内閣府主催の「地方創生・政策アイデアコンテスト」に出場し、RESAS（経済産業省による地域ビッグデータ提供システム）を活用した提案では地方予選を突破することもできた。また、サッポロファクトリーで例年行われているクリスマスツリー点灯式（ツリーは毎年広尾町から寄贈）に参加し、広尾町の紹介プレゼンをセレモニーの中で実施したり、物販を含めた町の紹介ブースを企画・運営する取り組みも進めた。 このような取り組みの中で、地域の活性化に大学などの外部者が関わる際の課題に直面することが空くならからずあった。この連携事業は町（役場）などと展開していたものの、地域の住民は必ずしも外部から見た「町」というくくりで日頃から地域を意識しているわけではない。そのため、町内の資源が町外の人たちにとってどう魅力的かや、どう価値があるのかなどにはそれほど（私たち外部者のようには）こだわりのないようにも思える。町外からの訪問者が増えようが、町が有名になろうが、（ひとまずは安定している）町民の今の生活への直接的な結びつきは見出しにくいものだからである。 このような状況で、町外（それも、かなり距離の離れた札幌）にある大学から研究者が入り込んで何かをしようとしても、必ずしも皆の積極的な理解を得られるわけではない。それは、私たちのような外部から来た研究者が町を見る目はあくまで外者のそれであり、自分たちのリアルな生活や文脈とは関係ない提案をするであろうことを予期しているからである。 例えば、町の産業や経済に元気がないことや、町の人口や訪問者が減少していることは、中長期的にはそこに住む人々の生活に影響を及ぼす問題だが、このような問題は地域内だけで解決できるものではない。むしろ、外部、特に人口や経済規模の多い都市部とのつながりをいかに生み出すかが重要になるといえる。そこで、本事業では地域に定期的に通って現実的な町の事情を把握しながらも、大都市にある大学という外者のメリットを生かすことにした。その具体的な成果が全国レベルでのコンテストへの参加やサッポロファクトリーでのイベント実施である。町の内側からの視

	点で、今の町民のリアルな現実に取り添った提案をし、町内でそれを実行していくことは、地方創生の取り組みとして確かに望ましい形の1つかもしれない。しかし、あくまで外部者としてその地域に関わらざるをえない状況で私たちができることは、むしろ外部者としてしかできない提案をどう考え、実行していくかだといえるだろう。
--	---